

本市のまちづくりの基本的な考え方、各種調査結果から見てきた公共交通の全体課題、本市の強み・弱み・外部環境など、これまでの議論を整理

＜各種基礎調査＞

※R3.3.15現在

調査の名称	調査対象	実施時期	回答件数等
公共交通の現状整理	-	9月～3月	-
既存資料・データの収集・整理・分析	-	9月～12月	-
バス利用実態調査	市内全9路線、全便	11/15 11/16	2日間で694名
主要拠点ヒアリング調査	米沢駅・南米沢駅・西米沢駅 （米沢駅は改札口カウントも実施）	11/15 11/16	○ヒアリング 平日185名 休日161名 ○改札口カウント 2日間で4,373名
交通事業者ヒアリング調査	山交バス（本社・米沢）、米沢地区ハイヤー協議会、辻自動車、村正運輸	12/24～1/8	4社
市民アンケート調査	15歳～79歳の市民 3,000名	11/23～12/4	1,601名（53.3%）
高校生アンケート調査	市内6校の第2学年 約1,000名	12/25～1/19	803名
民生委員等アンケート調査	民生児童委員 169名 生活支援コーディネーター 4名	10/26～12/11	158名（91.3%）
施設・団体等調査	医療施設 54 温泉旅館 22 工業団地 84 計 160団体	2/17～3/5	医療施設 32（59.3%） 温泉旅館 17（77.3%） 工業団地 60（71.4%） 計 109（68.1%）
庁内ヒアリング調査	総合政策課、社会福祉課、高齢福祉課、観光課、都市整備課、学校教育課	2/10～2/18	6課

＜分科会の開催＞

	実施日	参加者	内容
第1回	9/23(水)	13名	ワークショップ形式で、米沢市の公共交通の課題、いいところ、アイデアを話し合った。
第2回	10/18(日)	18名	市内高校生6名も参加し、フィールドワーク（米沢駅構内や循環バスに乗車）を行った後、ワークショップで気づいた点を共有した。
第3回	1/14(木)	9名	各種調査結果（中間）に関する疑問点の解消、分析など状況把握を行った。
第4回	3/15(月)	11名	各種調査結果に関する疑問点の解消、分析など状況把握を行い、次年度からの検討体制について共有した。

	＜全体課題＞	＜公共交通の強み＞	＜公共交通の弱み＞	＜外部環境＞
市街地の移動	市街地における公共交通の利便性向上が必要	市街地循環バスをはじめとし、路線バスなどのバス交通が高頻度に運行する強み	- 市街地の運行サービス量を活用しきれていない弱み - 通学を考慮した鉄道との接続性及びバス交通のダイヤ設定に弱み	- 総合計画での「学園都市」の実現に向けた取組 - 冬季には高校生の通学手段として自転車の使用が原則禁止 - 主要な施設は市街地に立地
地域間・地域内の移動	郊外部から市街地への適切な移動手段の確保が必要	- 多様な交通モードにより市街地への移動手段を既に確保している強み - 観光拠点への二次交通や小中学生の通学手段として公共交通が活用されていることは強み	- 郊外部から市街地内の施設への移動に対して多くの時間を要する点に弱み - 郊外部において十分な移動機会が提供されていない点に弱み	- 郊外部の地区内で完結する移動は多くない - 多くの通勤流動等が発生している拠点が立地 - コミュニティセンターを中心とした地域活動
広域の移動	圏域の生活を支える役割や超広域の移動を支える広域的な移動手段の確保が必要	都市間移動の高い利便性を有することは強み	- 運行の目的に対して実態が合っていない点が弱み - バスが乗れ入れしていない鉄道駅が存在する点に弱み（である可能性）	- 観光入り込み客数の増加・アフターコロナの観光振興に向けた取り組み - 置賜定住自立圏の中心市としての役割
公共交通の利用環境・市民意識等	- 利用しやすく、わかりやすい公共交通の利用環境の確保が必要 - 公共交通の利用につなげる意識の改善が必要	市街地循環バスの均一運賃制などわかりやすい運賃設定は強み	- 米沢駅の案内・誘導等のわかりづらさに弱み - 公共交通利用に対する市民意識の醸成が図られていない点に弱み - 冬季にバスを待ちづらい待合環境は弱み	運賃に対する改善要望・県全体のICカードの導入検討